



# 東京海上日本株アクティブファンド

追加型投信 / 国内 / 株式

## 月次報告書

### ファンドの特色 (詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

主に日本の企業の株式に投資します。

「TMA日本株アクティブマザーファンド」受益証券への投資を通じて、主として日本の企業(日本法人)の株式に投資します。(ファミリーファンド方式)

TOPIX(東証株価指数)をベンチマークとし、これを上回る投資成果を目標としてアクティブに運用します。

ファミリーファンド方式で運用を行います。

設定日	2000年3月21日	信託期間	無期限
決算日	原則 3月20日	(休業日の場合は翌営業日)	

### ファンドの主なリスクについて(詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

当ファンドは、主に国内の株式など値動きのある証券を実質的な投資対象としますので、基準価額は変動します。

投資信託は、**元本が保証されているものではありません。**また、**預貯金や保険と異なります。**

当ファンドへの投資には主に以下のリスクが想定され、これらの影響により損失を被り、**投資元本を割り込むことがあります。**

- 株価変動リスク** : 株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績・財務状況、市場の需給などを反映して変動します。また、発行企業が経営不安、倒産などに陥った場合は、投資資金が回収できなくなることもあります。
- 流動性リスク** : 受益者から解約申込があった場合、組入資産を売却することで解約資金の手当てを行うことがありますが、組入資産の市場における流動性が低いときには直前の市場価格よりも大幅に安い価格で売却せざるを得ないことがあります。

5ページの「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をご覧ください。

設定・運用: **東京海上アセットマネジメント投信**

URL <http://www.tokiomarineam.co.jp>

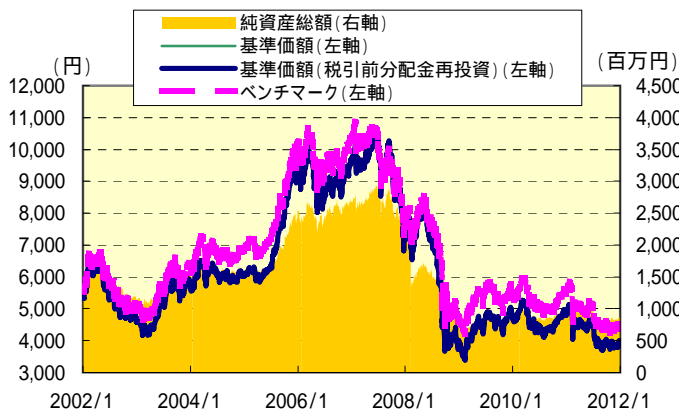


# 東京海上日本株アクティブファンド 月次報告書

追加型投信 / 国内 / 株式

## 基準価額、パフォーマンスなどの状況

### 基準価額・純資産総額の推移



基準価額は信託報酬控除後のものです。後述の信託報酬に関する記載をご覧ください。ベンチマークは設定日を10,000円として指数化したもので、参考情報として記載しており、ファンドの運用実績ではありません。(設定日:2000年3月21日)

基準価額は1万口当たりで表示しています。

上記グラフは過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。TOPIXは東京証券取引所が発表している東証市場第一部全銘柄の動きを捉える株価指数です。TOPIXの指数値および商標は、東京証券取引所の知的財産であり、TOPIXに関するすべての権利およびノウハウは東京証券取引所が有します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値の算出もしくは公表の方法の変更、公表の停止、TOPIXの商標の変更、使用の停止を行う場合があります。

### 基準価額・純資産総額

基準価額	3,949円
純資産総額	860百万円

### 騰落率(税引前分配金再投資、%)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	+3.27	-1.55	-11.62	-17.64	+2.54	-60.51
ベンチマーク	+3.66	-1.15	-10.23	-17.01	-4.88	-54.84

ファンドの騰落率は、税引前分配金を再投資したものとして計算しているため、実際の投資家利回りとは異なります。

### 分配の推移(1万口当たり、税引前)

期	日	金額
第7期	2007年3月20日	0円
第8期	2008年3月21日	0円
第9期	2009年3月23日	0円
第10期	2010年3月23日	0円
第11期	2011年3月22日	0円
設定来累計		分配実績なし

分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。

分配対象額が少額の場合などには、分配を行わないことがあります。

## 主要な資産の状況

当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、マザーファンドの資産の状況を記載しています。

### 資産構成

資産	比率(%)
株式	97.4
株式先物	0.0
短期金融資産など	2.6
合計	100.0

純資産総額 17,201百万円

### 組入上位10業種

業種名	比率(%)
1 電気機器	18.9
2 輸送用機器	11.0
3 銀行業	10.7
4 卸売業	7.5
5 機械	7.1
6 情報・通信業	6.4
7 医薬品	5.2
8 化学	4.2
9 その他金融業	3.3
10 小売業	2.8

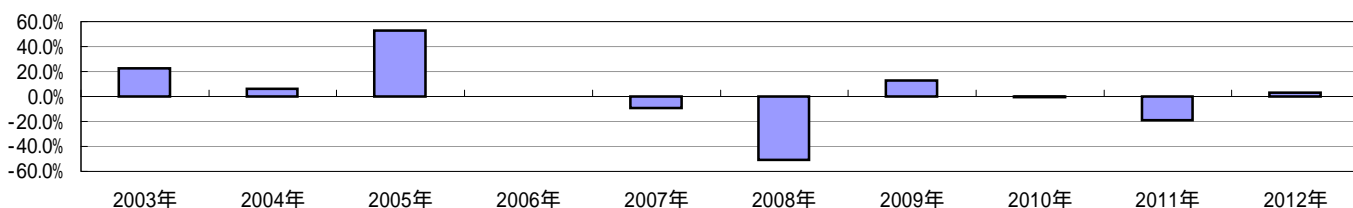
### 組入上位10銘柄

銘柄名	コード	業種名	比率(%)
1 三菱UFJ FG	8306	銀行業	4.2
2 三井住友 FG	8316	銀行業	4.1
3 トヨタ自動車	7203	輸送用機器	3.9
4 三井物産	8031	卸売業	3.7
5 日本電産	6594	電気機器	3.2
6 三菱商事	8058	卸売業	2.8
7 三菱電機	6503	電気機器	2.8
8 ファナック	6954	電気機器	2.8
9 キヤノン	7751	電気機器	2.7
10 小松製作所	6301	機械	2.7

組入銘柄数 78

短期金融資産などは、組入有価証券以外のものです。比率は、純資産総額に占める割合です。

## 年間収益率の推移



ファンドの収益率は、税引前分配金を再投資したものとして計算しています。

当年の騰落率は昨年末と基準日の騰落率です。上記は過去の実績であり、将来の動向などを示唆・保証するものではありません。

5ページの「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をご覧ください。

設定・運用: **東京海上アセットマネジメント投信**  
URL <http://www.tokiomarineam.co.jp>



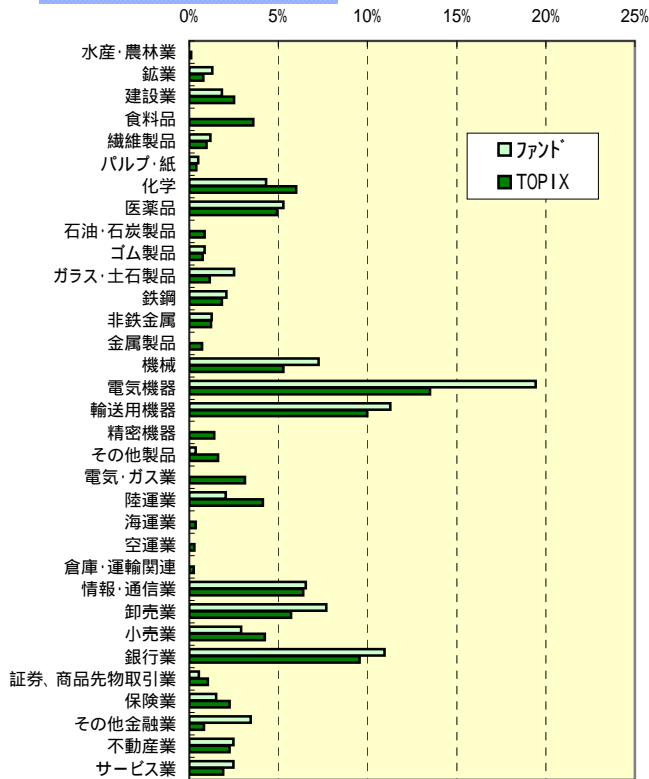
# 東京海上日本株アクティブファンド 月次報告書

追加型投信 / 国内 / 株式

## 業種配分および業種別月間騰落率

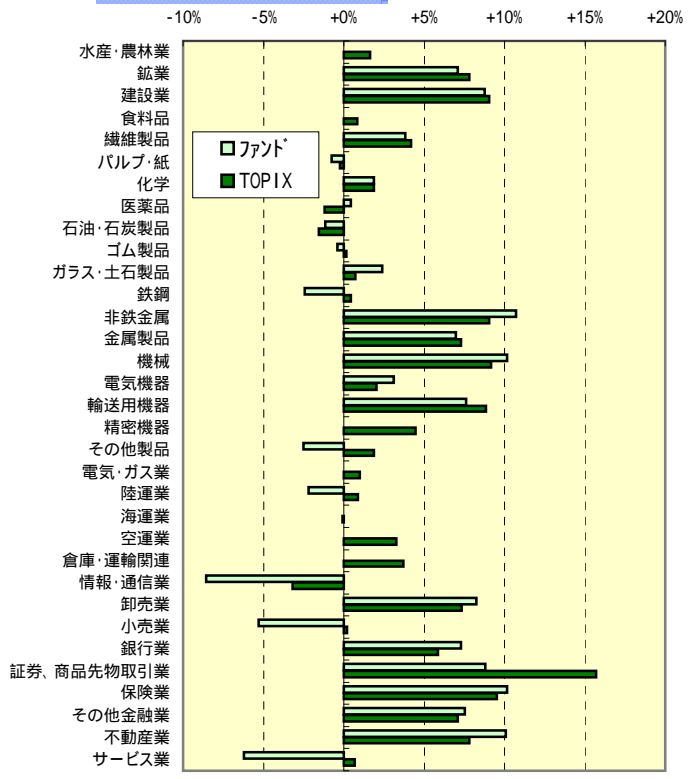
当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、マザーファンドの状況を記載しています。

### 業種配分



比率は、時価総額に占める割合です。

### 業種別月間騰落率



ファンド月間騰落率は概算値であり、その正確性、完全性などを保証するものではありません。傾向を知るための目安としてご覧ください。

## ファンドマネージャーコメント

### 投資環境と運用経過

1月の国内株式市場は、TOPIXが+3.66%、日経平均株価が+4.11%と共に前月末対比で上昇しました。国内市場が年末年始に休場する間、海外主要株式市場が堅調に推移したことから、初日の国内株式市場は上昇して始まりました。月央にかけては、欧州債務問題の懸念が高まる中、欧州の景気後退観測や為替市場では1ユーロ=100円を大きく割り込み円高になったことなどが嫌気され、海運業、電気機器などの市況関連や輸出関連を中心に株価が下落しました。一方、橋梁や道路建設に関わる低位株で大きく値上がりした銘柄も散見されました。13日に大手格付会社がフランス国債を格下げしましたが、16日のフランス国債入札が無難に終わったことをきっかけに、欧州債務問題に対する市場参加者の過度な懸念が後退し、為替市場ではユーロ相場が反発し始めました。ユーロ相場反発以降の国内株式市場は、金融や海運、鉄鋼など、相対的に株価に出遅れ感の強い業種を中心に反発しました。海外株式市場では、24日から開催されたFOMC(米連邦公開市場委員会)で、2014年後半まで長期にわたる金融緩和姿勢を継続する意向を示したことが好感されましたが、これをきっかけに対米ドルで円高になったことから、国内株式市場の上値は次第に重くなりました。また、欧州では、ギリシャの債務減免交渉が難航し欧州債務問題への懸念が再燃したことから再びユーロ安傾向が強まり、1月最終週の国内株式市場は反落しました。

このような環境下、1月の当ファンドのパフォーマンスはベンチマークを下回りました。

### 今後の見通し

2月の国内株式市場は軟調な展開を想定します。一時的に小康状態となった欧州債務問題は、ギリシャの債務減免交渉の難航やポルトガルのデフォルト(債務不履行)懸念などから、再び警戒感が高まっている状況です。また、市場参加者の事前予想を上回る発表が相次いだ米国経済指標は、次第に市場の高い期待を上回ることが困難になりつつあります。国内では2012年3月期第3四半期決算の発表が集中する時期を迎えていますが、発表された決算はエレクトロニクス関連業種を中心に市場の期待を下回る内容が多く見受けられ、先行きの業績予想についても下方修正が相次いでおり、株価の上値抑制要因になると思われます。



# 東京海上日本株アクティブファンド 月次報告書

追加型投信 / 国内 / 株式

## お申込みメモ

詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

- 取得の申し込み : 原則として、毎営業日にお申し込みを受け付けます。  
 受付は午後3時までとします。  
 受付時間を過ぎてからの申し込みについては、翌営業日受付の取り扱いとなります。
- 申込単位 : 販売会社やお申し込みのコースなどによって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。  
 お申し込みには、収益分配金の受取方法により以下の2種類のコースがあります。  
 <分配金受取りコース>分配金を受け取るコースです。  
 <分配金再投資コース>分配金が税引き後、自動的に無手数料で再投資されるコースです。
- 申込価額 : お申込受付日の基準価額
- 換金の請求 : 原則として、毎営業日にご換金の請求を受け付けます。  
 受付は午後3時までとします。  
 受付時間を過ぎてからのご換金請求については、翌営業日受付の取り扱いとなります。
- 換金単位 : 販売会社やお申し込みのコースなどによって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 換金価額 : ご換金請求受付日の基準価額
- 換金代金の支払い : 原則として、ご換金請求受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
- 信託期間 : 原則として、2000年3月21日から無期限とします。
- 収益分配 : 原則として、毎年3月20日(休業日の場合は翌営業日)の決算時に、分配方針に基づいて収益分配を行います。  
 分配対象額が少額の場合などには、分配を行わないことがあります。  
 将来の分配金の支払いおよびその金額について、保証するものではありません。
- 課税上の取り扱い : 収益分配時の普通分配金、換金(解約)時および償還時の差益に対して課税されます。  
 課税上は株式投資信託として取り扱われます。  
 税制改正などにより、課税上の取扱内容が変更になる場合があります。

## 当ファンドにかかる手数料等について

詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

### 申込時に直接ご負担いただく費用

- 取得時の申込手数料 : お申込手数料はありません。

### 換金時に直接ご負担いただく費用

- 換金(解約)手数料 : ご換金(解約)手数料はありません。
- 信託財産留保額 : 信託財産留保額はありません。

### 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

- 信託報酬 : 信託財産の純資産総額に対し、**年1.995%(税抜1.9%)**の率を乗じて得た額
- その他の費用 : 監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、信託事務等に要する諸費用などをファンドの信託財産を通じて間接的にご負担いただきます。(「その他の費用」は実際の取引などに応じて決まる費用であるため、その料率、金額などを事前に表示することはできません。)

当ファンドの手数料等の合計金額については、保有期間などに応じて異なりますので表示することができません。

5ページの「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をご覧ください。

設定・運用: **東京海上アセットマネジメント投信**

URL <http://www.tokiomarineam.co.jp>



# 東京海上日本株アクティブファンド 月次報告書

追加型投信 / 国内 / 株式

## 委託会社、その他関係法人

委託会社:東京海上アセットマネジメント投信株式会社

信託財産の運用指図などを行います。

商号等: 東京海上アセットマネジメント投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第361号

加入協会: 社団法人 投資信託協会、社団法人 日本証券投資顧問業協会

受託会社:三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社)

信託財産の保管・管理などを行います。

販売会社

投資信託説明書(目論見書)のご提供、募集・販売の取り扱い、一部解約事務および収益分配金・解約金・償還金の支払いなどを行います。

商号(五十音順)	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	社団法人 日本証券 投資顧問業協会	社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
SMB C日興証券株式会社 (投信スーパーセンター)	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号				
株式会社 SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号				
東京海上日動火災保険株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第135号				
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号				

(当ファンドの照会先)

上記販売会社または下記までお問い合わせください。

東京海上アセットマネジメント投信 サービスデスク 0120-712-016

土日祝日・年末年始を除く9時～17時

## 当資料のお取り扱いにおけるご注意

当資料は、東京海上アセットマネジメント投信が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。お申し込みに当たっては必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書(交付目論見書)は販売会社までご請求ください。

当資料の内容は作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載された運用実績は、過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

投資信託は、値動きのある証券など(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。

投資信託は金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。委託会社の運用指図によって信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家に帰属します。

投資信託は、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。

投資信託は、預金および保険契約ではありません。また、預金保険や保険契約者保護機構の対象ではありません。

登録金融機関から購入した投資信託は投資者保護基金の補償対象ではありません。

設定・運用: **東京海上アセットマネジメント投信**

URL <http://www.tokiomarineam.co.jp>